

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	地域生活支援給付事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	保健福祉部	課等名	福祉課		包含する細々目	1	3	1	3	51	3	99,275
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり											
施策	34 障害者福祉の推進											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画 条例等		長野県障害者プラン 飯田市障害者プラン 障害者自立支援法 飯田市地域生活支援事業に関する要綱				
		事業期間	18	年度～	年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	在宅での支援サービスを希望している障害児者	在宅の障害児者数(人)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			2330	2560		
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	地域で暮らす障害者がある有する能力を生かし、地域の特性や利用者の状況にあったサービスを利用することにより自立した日常生活や社会生活を営む事ができるようにする。	地域生活支援給付を受けて日常生活を送っている障害児者数(人)	18目標	120	最終目標	
			18実績	120	19目標	200
			23目標	220	23実績	
			18目標		最終目標	
		18実績		19目標		
		23目標		23実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	<参考>細々目名:日中活動支援事業費 障害者の自立した日常生活や社会生活を営む為の独自の支援サービス 自立支援給付、地域生活基本事業と共に障害者の地域での生活を支える 移動支援事業 屋外での移動が困難な障害者に外出の支援を行う 訪問入浴事業 重度の障害者の自宅を訪問し浴槽を提供して行われるサービス 地域活動支援センター事業 在宅の障害者が通所により創作的活動や生産活動を通して社会との交流を図るサービス 日中一時支援事業 重度の障害者の日中活動の場を確保し家族の一時的な休息を目的とするサービス	移動支援事業 社会生活上必要不可欠な外出及び余暇活動のための外出 訪問入浴事業 訪問入浴以外に入浴の方法がない障害者を対象 日中一時支援事業 療育センターひまわりを利用している重度の障害者対象	サービスを受けている障害者数	120
		移動支援事業 社会生活上必要不可欠な外出及び余暇活動のための外出 訪問入浴事業 訪問入浴以外に入浴の方法がない障害者を対象 地域活動支援センター事業 自立支援法による移行状況を確認しながら対象者に支援を行う 日中一時支援事業 療育センターひまわりを利用している重度の障害者対象	サービスを受けている障害者数	200

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定		
	国庫支出金	3,228	17,758
	県支出金	1,614	8,880
	起債		
	その他	0	
	一般財源	7,395	72,637
事業費計(A)	12,237	99,275	
人件費	正規職員所要時間	18年度 50	19年度 100
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	179	358
	トータルコストA+B	12,416	99,633

特定財源内訳や補足事項	国1/2 県1/4 市1/4
-------------	----------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	安心して地域で日常生活が送られる	安心して地域で日常生活がおくれる割合	現状値	68	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	68
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
障害者自立支援法の施行により、市町村がその特性を生かして実施することになった地域生活支援事業の内、訪問入浴事業や移動支援事業などを、給付費として支給することになった。		

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由) 障害者の安心した地域生活の継続に繋がる。	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がない (その理由) 利用者が限定されていて日常生活に必要不可欠な事業である
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 飯伊圏域で利用対象者が決められおり 適切な支給決定をしていく		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由) 日常生活における入浴や移動などの支援が受けられなくなり、自立した地域生活が不可能となる障害者がでることも予想される。
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由) 介護保険のサービスと共通しているが対象者が異なり介護保険が優先となる。
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由) 地域生活支援事業として市が実施主体となっている		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由) 生活実態も個別ニーズも一人一人違うため個別の計画が必要であり個別の対応が必要である
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由) 障害者自立支援法の1割負担導入に伴い地域生活支援事業にも1割の負担を導入された。軽減措置あり

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	実施年度 <input type="text"/>	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案 制度が始まったばかりであり制度がスムーズに運用されていくかみていく必要がある。その後サービスが有効に適正に利用されているか確認していく必要がある
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法		

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由	
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？			

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	